

1 世界遺産・国宝 姫路城

MAP: A図/C-2

姫路城は、慶長年間に建てられ、日本独自の城郭建築の技術が最高潮に達した時期の最も完成された城とされています。昭和26年には国宝に指定、平成5年には日本ではじめてユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されました。

また、白漆喰で塗り込めた優美な姿は、飛び立つ白鷺に例えられ、白鷺城とも呼ばれています。平成21年から約5年半、約50年ぶりとなる改修を終え、一層白く美しく生まれ変わりました。



大規模な構造と構成美 螺旋式縄張り

姫路城は大天守と3つの小天守が渡櫓で結ばれた連立式天守が完全な姿で残されており、幾重にも重なる屋根、千鳥破風や唐破風が、白漆喰総塗籠造の外装と相まって、華やかな構成美を誇っています。城内の数ある建造物のうち、8棟が国宝に、74棟が国の重要文化財に指定されています。

天守閣を中心に、内曲輪、中曲輪、外曲輪が螺旋状の堀で区分され、本格的な螺旋式縄張りを構成しています。外堀に囲まれた城下町は合計233ヘクタールの広さを誇ります。

城内の見どころ



菱の門

入城ゲートをくぐります。城内で最も大きい門。両柱の上の冠木に木彫りの菱の紋があることから



石垣 扇の勾配

石垣が扇を広げたような美しいカーブを描くことからこの名がつけました。トにいくほど急勾配となっており



大天守・大柱

外観は5層、内部は地上6階、地下1階という構造です。この巨大な建物を支えているのが2本の大柱。西大



黒田官兵衛が築いた石垣

黒田官兵衛は軍師としてだけでなく、城造りにおいても名手と言われています。現在の姫路城にも、秀吉が

